

第3章

土木未来プロジェクト

～主要プロジェクトの成果～

- 1 豪雨災害対策
- 2 南海トラフ地震対策
- 3 九州の東の玄関口としての拠点化
- 4 大分都市圏交通円滑化対策
- 5 道路空間の再生
- 6 大分県公営住宅マスタープラン2020の策定及び
- 7 スポーツを支える拠点整備
- 8 社会資本の集中的メンテナンス
- 9 建設産業の魅力発信

第3章 土木未来プロジェクト2016～2024の成果

1 豪雨災害対策 (1/3)



竹田のまちと暮らしを守る～玉来ダムの完成～

背景

□過去の豪雨災害により甚大な被害が発生

被災年月	被害額	浸水家屋
S57. 7	54億円	356戸
H2. 7	466億円	1,483戸
H24. 7	142億円	217戸

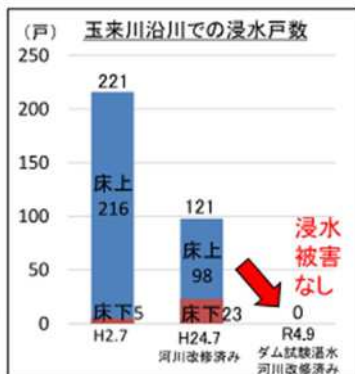
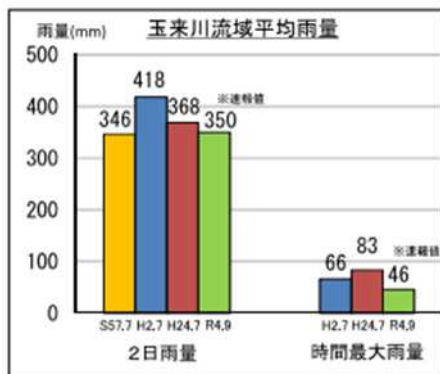


平成24年九州北部豪雨による被災状況

整備効果

■平成29年3月に本体工事着工し、堤体は令和3年8月に完成

■試験湛水を開始した直後の令和4年台風14号では治水効果を発揮し **浸水被害なし**



1 豪雨災害対策 (2/3)



まちづくりと連携した災害復旧～津久見川河川改修～

背景

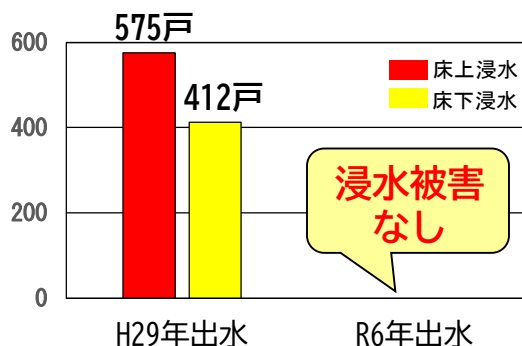
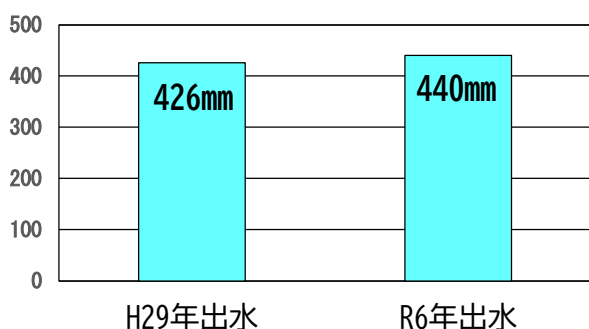
- 平成29年台風18号により市中心部で浸水や冠水など甚大な被害
- 床上575戸、床下412戸、浸水面積約116ha

津久見川の氾濫状況
(平成29年台風18号)



整備効果

- 平成29年12月に事業採択、6年という短期間で完成（令和5年9月完成）
- 完成後の令和6年台風10号では、治水効果を発揮し **浸水被害なし**
- まちづくりと一体となった河川整備**を行い、魅力ある河川空間を創出



1 豪雨災害対策 (3/3)



ハード・ソフト一体となった土砂災害対策の推進

ハード対策(砂防施設の整備)

- 重要な交通網、避難所などの地域防災拠点、社会福祉施設などの要配慮者施設がある箇所を優先しながら**砂防施設の整備を推進**
- 中津市の草木川で整備した砂防施設が土砂・流木を捕捉し、**下流への被害を未然に防止**



草木川の土砂・流木捕捉状況
(令和5年梅雨前線豪雨)

ソフト対策(日頃の備えや早めの避難を促す)

- 令和6年度までに**25,212区域の土砂災害警戒区域等を指定**
- 市町村が行う土砂災害ハザードマップの作成支援を進め、令和6年度までに**25,064区域の作成が完了**し避難体制を強化
- 実効性のある避難行動を確保するため、令和元年度から「土砂災害避難促進アクションプログラム」の取組を開始し、令和6年度までに**16市町37地区で実施**



土砂災害警戒区域指定状況



ハザードマップ再点検



避難訓練

土砂災害避難促進アクションプログラム実施状況

- 日田市中津江村の高齢者福祉施設では、がけ崩れにより施設に被害が生じたものの、**早めの避難により人的被害ゼロ**



土砂災害警戒区域等の指定状況
(平成25年12月13日告示)



施設周辺の土砂災害発生状況
(令和2年7月7日)



大分臨海部コンビナートと市街地を守る～大分港海岸の強靱化～

背景

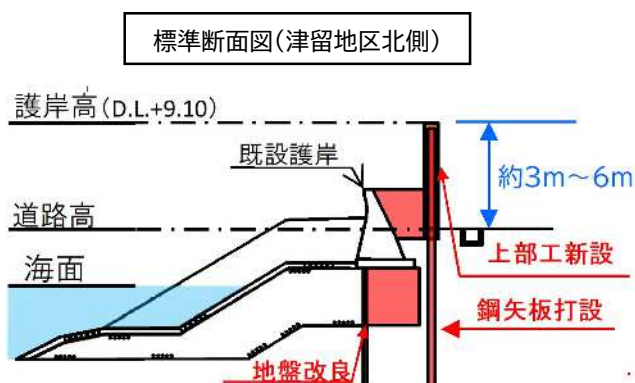
- コンビナートには製鉄業と石油化学工業を中心とした日本を代表する企業が立地
- 大分港海岸の護岸は、古いもので整備後50年以上が経過し、老朽化が進行
- 南海トラフ巨大地震の被害想定額は約1.3兆円
(被害人口約3.3万人、被害戸数約1.6万世帯)



大分港海岸の強靱化

- 平成29年度に事業着手
- 背後に製鉄関連会社が立地する津留地区では、北護岸3.4kmに着手し、そのうち2.1kmの整備が完了

大分港海岸直轄海岸保全施設整備事業
事業期間：平成29年度～令和17年度
事業費：327億円
計画延長：21.4km



整備状況(津留地区北護岸)





道路啓開体制の構築と事前防災対策～災害に強い道路へ～

道路啓開体制の構築

- 災害発生時に速やかに緊急車両が通行できるようにする「道路啓開」の体制を構築し、定期的に訓練を実施するなど、事前の備えを充実・強化

H28熊本地震における道路啓開状況 【国道212号（日田市）】



被災直後



建設業協会と連携した啓開作業

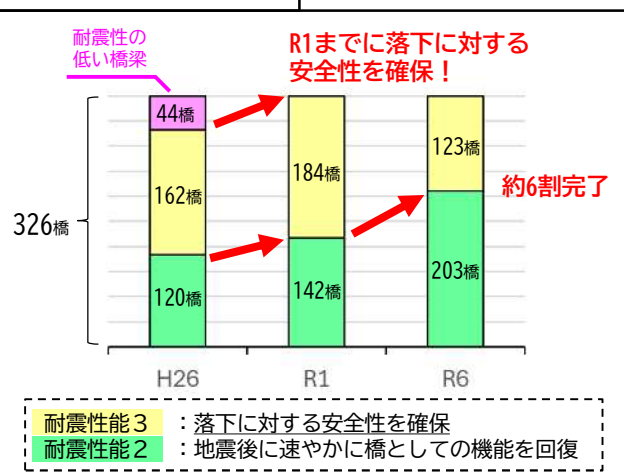


啓開作業が完了し通行が可能に

事前防災対策（橋梁耐震化）

- 緊急車両の通行を確保すべき重要な路線となる「緊急輸送道路」における橋梁の耐震化を推進

これまでの取組状況



事前防災対策の効果事例

出典：国土交通省HP

令和6年能登半島地震では、対策を実施していた橋梁に致命的な損傷はなく、すりつけを行い速やかに通行を確保



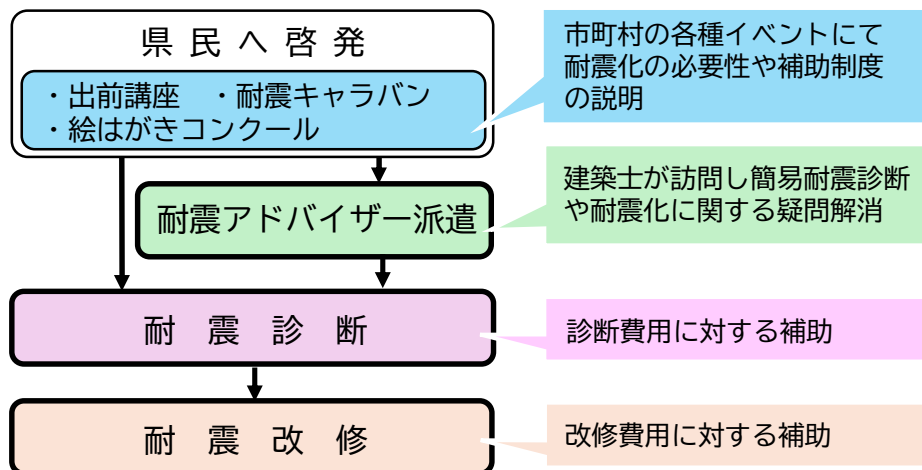


大分県住まいに関する絵はがきコンクール【テーマ：住まいと地震】（啓発）

「生命を守る」住宅の耐震化

住宅耐震化総合支援事業

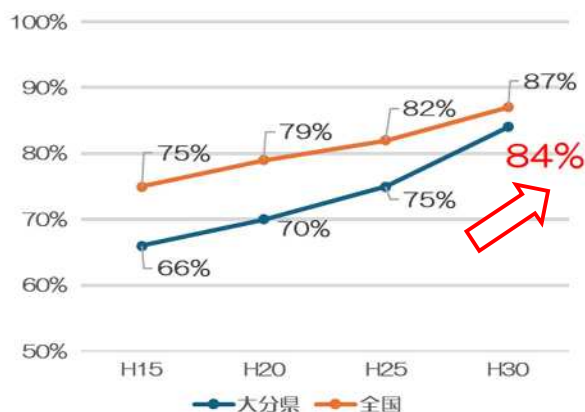
■旧耐震基準(S56.5以前に着工)の**木造住宅の耐震化を促進**



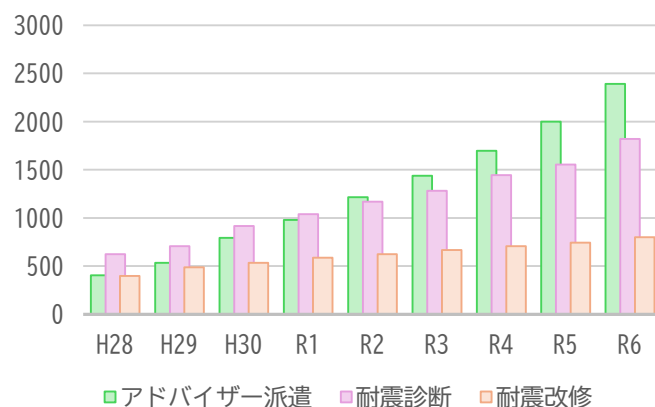
▼耐震キャラバン（啓発）



▼耐震化率の推移

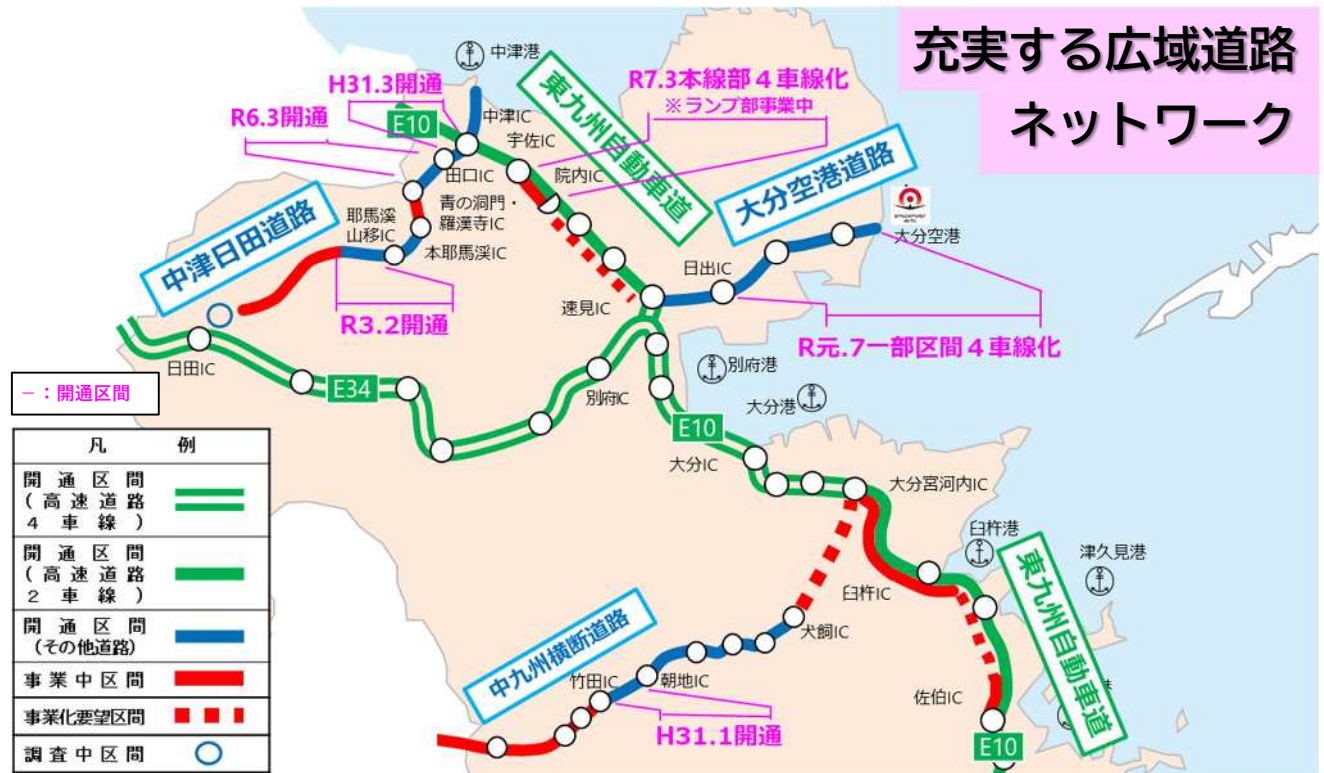


▼耐震アドバイザー・耐震診断・耐震改修の実績（累積件数）



第3章 土木未来プロジェクト2016～2024の成果

3 九州の東の玄関口としての拠点化（1/2）



東九州自動車道
(宇佐IC～院内IC 4車線化)



中九州横断道路
(朝地IC～竹田IC)



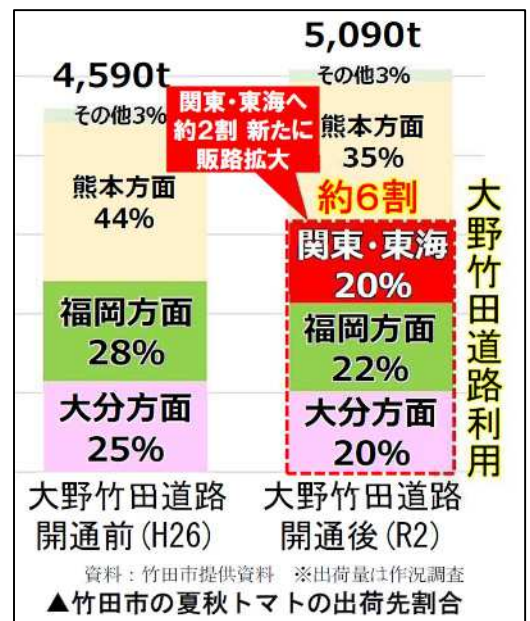
中津日田道路
(耶馬溪山移IC～下郷交差点)

■これまでの9年間で**約26.1km**の高規格道路の整備を実施

■移動時間の短縮などにより、新たな販路の拡大など、**産業や観光振興に寄与**



中津日田道路の各区間開通後に
中津港からの原木の輸出が増加



大野竹田道路開通後に
大分港からの農業販路が拡大

第3章 土木未来プロジェクト2016～2024の成果

3 九州の東の玄関口としての拠点化（2/2）

臼杵港（2025年5月供用）



大分港（2025年5月供用）



拠点化に向けた港湾整備～新ターミナルの完成～

大分港

- 船舶大型化に対応した、**新RORO船ターミナルが令和7年5月に供用**
- 岸壁背後に約2.4倍のふ頭用地を整備
- DXを活用した荷役作業の効率化

大分港発RORO船シャシー台数の推移



◆大分港RORO船ターミナルの整備



◆DX技術を活用したシャシーの管理



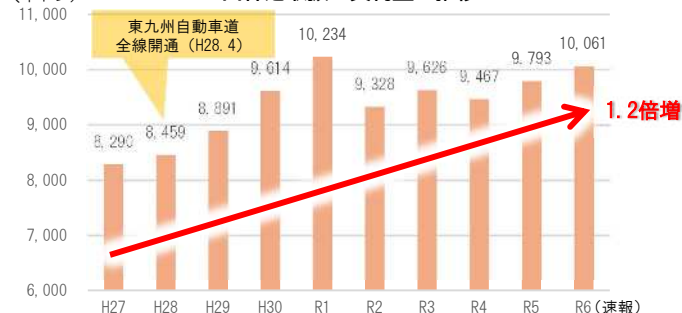
集中管理ゲートで受付と駐車場所の指示を自動化



臼杵港

- 新フェリーターミナルが令和7年5月に供用**
- 耐震性の高い岸壁と緑地の整備により、災害時の緊急物資輸送拠点、平常時は憩いの場として活用を予定

臼杵港取扱貨物量の推移



◆臼杵港フェリーターミナルの整備



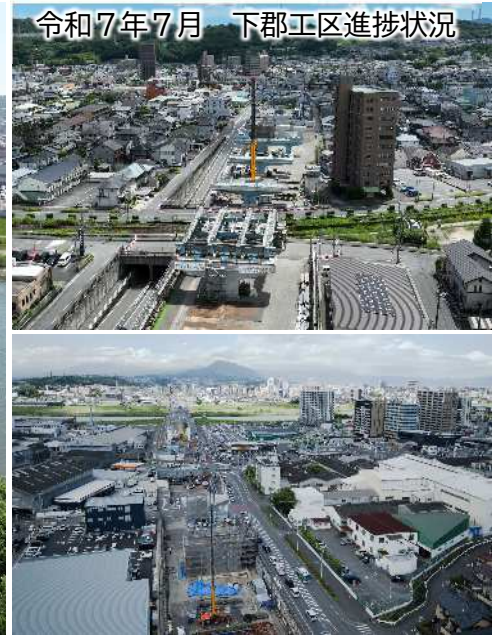
第3章 土木未来プロジェクト2016～2024の成果

4 大分都市圏交通円滑化対策

平成30年1月 宗麟大橋の開通



令和7年7月 下郡工区進捗状況

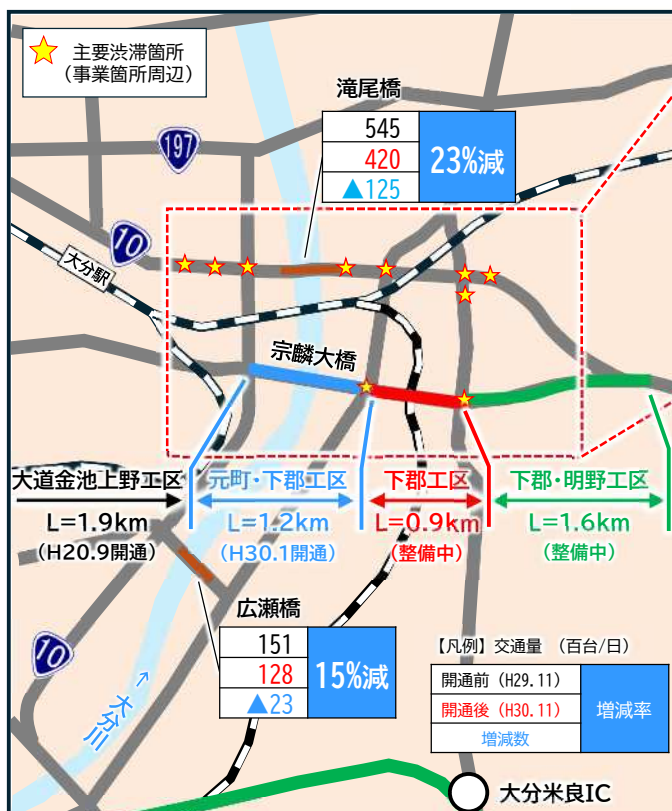


大分都市圏の新たな東西軸～庄の原佐野線の整備～

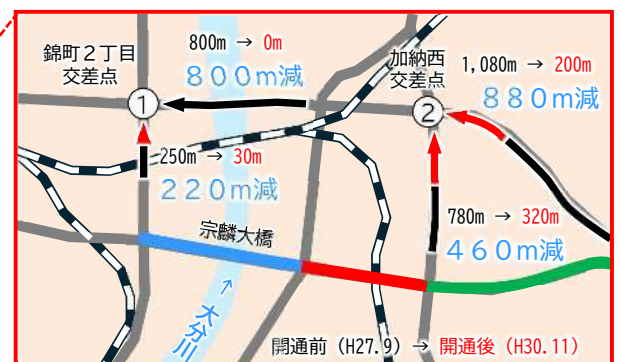
- 県道大分臼杵線など大分市中心部から東部に至る路線では、依然として慢性的な交通渋滞が発生
- 平成30年1月の元町・下郡工区（宗麟大橋）の開通により、**交通量が分散**され、**周辺道路の渋滞が緩和**
- 引き続き、下郡工区及び下郡・明野工区の整備を推進



－ 渋滞状況（県道大分臼杵線）－



－ 宗麟大橋開通後の交通量の変化 －



－ 周辺交差点における渋滞状況の変化－



－ 完成イメージ（下郡工区、下郡・明野工区）－



まちの魅力の再生とにぎわいの創出

リボーン197プロジェクト

- 国道197号の一部である「昭和通り」を「大分の街並みを引き立て、落ち着き・品格のある昭和通り」として再生
- 歩道橋撤去と四隅広場の再生を行い、**バリアフリー化と開放的な都市空間を創出**
- クロマツ区間ではバス専用レーンをなくし歩道を拡幅して、**歩行者の円滑な通行を確保**
- 大分県が主体の事業として始めて**グッドデザイン賞を受賞**



昭和通り交差点歩道橋撤去



安全な歩行者空間の確保



にぎわい創出（イベント活用）

無電柱化の推進

- （都）山田関の江線などで景観を阻害する電柱・電線類を地中化
- 災害時の電柱倒壊による**道路閉塞のリスクを軽減し、安全で安心な歩行空間を確保**



（都）山田関ノ江線（別府市）



ラウンドアバウト

- 宇佐市安心院町で**県内初**のラウンドアバウト（環状交差点）の運用を開始
- スピード抑制により**重大事故が減少**



県内初のラウンドアバウト

令和7年3月完成
明野住宅 MRR-4棟（1棟目）



民間のノウハウを活用した集約建替～県営明野住宅～

明野住宅の集約建替

- 民間の経営能力・技術力を活用する**PFI方式を採用**
- 16棟565戸→**5棟300戸に集約・建替**
- 集会所や児童遊園などを合わせて整備し、地域コミュニティを醸成



第3章 土木未来プロジェクト2016～2024の成果

7 スポーツを支える拠点整備（1/2）



スポーツによる地域活性化 ～県立武道スポーツセンターの完成～

建設の経緯

- 既存の県立総合体育館（昭和54年開館）は設備が老朽化、競技面積が不足
- スポーツ振興の拠点及び大規模災害時の広域防災拠点としての機能強化

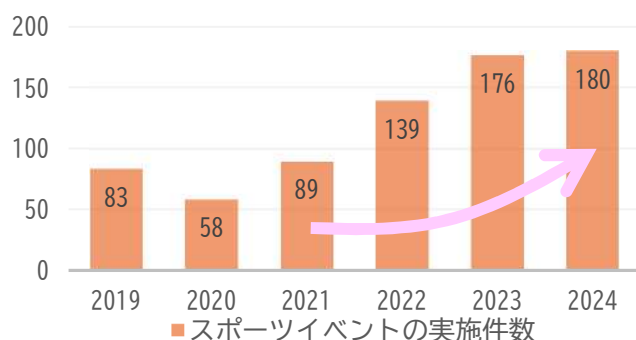
県産品の活用

- 県産のスギ約985m³**（構造材＋意匠材）を活用
※一般住宅約41棟分
- 無垢材としては**日本最大級の大スパン**（約70m）の屋根架構
- 別府竹細工の竹ルーバーを壁や天井の内装に使用
- 国東半島宇佐地域の**七島藺（しちとうい）**畳を使用したベンチを配置



利用状況

- 2019年4月に完成以降、**国内トップリーグの公式戦**や**日本代表の合宿**などで使用
- 防災拠点として**広域搬送拠点臨時医療施設等に活用**できるスペースを確保





クラサドーム大分

ラグビーワールドカップ2019™の開催を契機としたスポーツ施設の充実 クラサドームの大規模改修

①ハイブリッド芝※の導入 芝の強度向上

※天然芝に人工芝を一定割合加えたもの



②グローライト※の導入 9基 芝の生育促進

※植物の育成のために使用される人工照明



③照明設備の増設 64基 視認性の向上



④音響設備の更新 74台 音質の向上



- ラグビーワールドカップ2019™では、首都圏以外で唯一の開催となる準々決勝を含む **5試合で約17万人**の観客が訪れ、世界最高峰の試合に熱狂
- 現在はJリーグに加え、ラグビーリーグワンの試合も開催
- 国内最高峰のスポーツに親しむ機会を創出





利用者の安全・安心を確保するメンテナンス

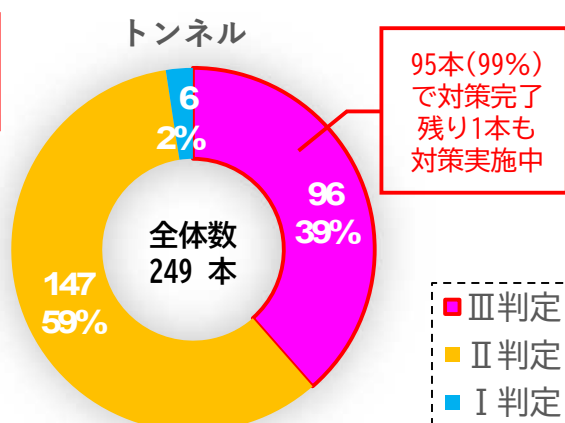
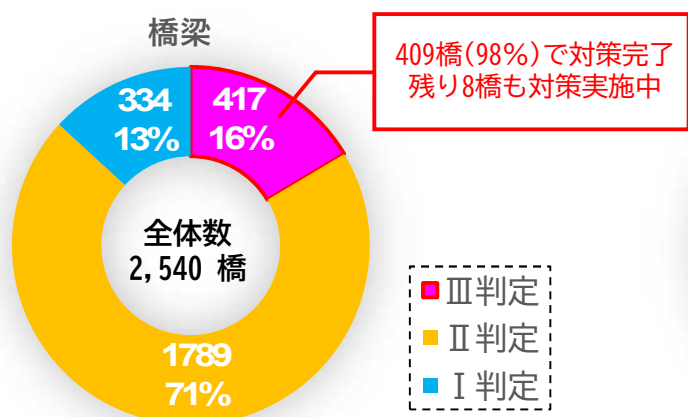
着実な点検と計画的な補修

■2014年度までの点検により早期対策（Ⅳ・Ⅲ判定）が必要な橋梁・トンネルについて2020年度までに**すべて対策完了**

■2018年度までの点検（法定点検）により早期対策（Ⅲ判定）が必要な橋梁・トンネルについて2024年度までに**約98%の対策が完了**

判定の区分

- Ⅰ判定：機能に支障が生じていない状態
- Ⅱ判定：予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
- Ⅲ判定：早期に措置を講ずべき状態
- Ⅳ判定：緊急に措置を講ずべき状態



点検業務における新技術等の活用

■ドローンによる点検やA I 画像解析による損傷箇所の抽出など、**新技術等の活用を試行**



（従前）目視検査

新技術の活用

**交通規制が不要
点検時間の短縮**



（新技術）A I 画像解析技術

地域の安全・安心を支える建設産業のイメージアップ

- 建設産業は若年入職者が減少、高齢化も進行
- 若者が夢を持って入職できる産業、女性も活躍できる産業を目指す

土木未来教室

>>土木事務所が小中学生に学ぶ機会を提供



トンネル工事現場の見学



模型を使った砂防教室

BUILD OITA

>>産学官で連携したイメージアップ



BUILD OITAバスツアー



おしごと教室



様々なメディアを活用した動画配信

BLOCKS

>>建設産業で働く女性の活躍を推進



女性のネットワーク構築
(成果発表会)



県内建設産業で活躍する
女性を紹介する冊子「BLOCKSY」

※2025年度から事業の通称を「BLOCKS」から「Buildy（ビルディ）」に変更